

WRAP ユーティリティ

機能

テキスト・ファイル (PL/SQL ソース・コード) の内容を暗号化して別ファイルを作成する

この暗号化されたファイルは、SQL/PLUS からの呼出しには利用することができる

ただし、暗号化ファイルを複合して元の平文のファイルを作成することはできない。平文ファイルは、修正作業のため安全に保管しておく必要がある。

暗号化ファイルは、配布のために利用する

平文 SQL ファイル

```
CREATE OR REPLACE
  PROCEDURE テスト用プロシージャ
IS
  val NUMBER;
BEGIN
  val := 100;
  DBMS_OUTPUT.PUT_LINE(val);
END;
```

拡張子 : .sql

隠ぺいされた暗号化ファイル

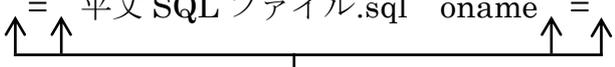
```
CREATE OR REPLACE
  PROCEDURE テスト用プロシージャ
warped
h6521fgnj
fg,lkiuyfsdgj2ligds68ugf5rf6ng65ffhgffxx
3nzmhf5hgyj634hjl36htd5lkugm44hfda3
rfdlijvstgbkhfswqafjiuj5ngfd36lghumnb
x5mkhgfryuk5jhfdjlpoyurs25jhrd:@jggm
```

.plb

このファイルをアップロードすることによって、サーバーの中のソースコードを隠蔽することが出来ます

使い方概要

```
c:\> wrap iname = 平文 SQL ファイル.sql  oname = 暗号化ファイル.plb
```



注意) 等号 (=) の左右には、空白を入れてはいけない

Processing 平文 SQL ファイル.sql to 暗号化ファイル.plb

SQLPLUS で、接続

```
SQL> @暗号化ファイル.plb -- サーバーへの暗号化されたプロシージャの登録
```

```
SQL> EXECUTE プロシージャ名 ← プロシージャの実行 (呼出し)
```

注 意)

暗号化出来るファイルは、プロシージャ、ファンクション、パッケージの Create 文
だけである

これ以外のファイル、 単体 SQL 文、無名 PL/SQL ブロック文、DML 文 (テ
ーブル Create 文) は暗号化出来ない

サンプル・コード

テスト用プロシージャ.sql ファイル

```
CREATE OR REPLACE PROCEDURE sample_PROCEDURE
IS
  val NUMBER;
BEGIN
  val := 100;
  DBMS_OUTPUT.PUT_LINE(val);
END;
```

1). 暗号化ファイル作成

wrap iname = テスト用プロシージャ.sql oname = 出力暗号ファイル.plb



注意) 等号 (=) の左右には、ブランクを入れてはいけない

実行結果

```
Processing テスト用プロシージャ・ファイル.sql
to 出力暗号ファイル.plb
```

これにより、出力暗号ファイル.plb が、クライアントの中のディスクに作成されたことになる

2). サーバーへの暗号化されたプロシージャの登録

```
SQL> @暗号化ファイル.plb
```

3). プロシージャの呼出し

```
SQL> EXECUTE sample_PROCEDURE
```

実行コマンドの隠蔽

第三者に解らないようにして、SQL コマンドを実行する方法

実行するコマンドをメールで送付して相手方に操作してもらい SQL 実行をする時に、実行したコマンドの内容を隠す方法

手順 1.

実行する SQL コマンドをスクリプト・ファイルとして作成する

※ この時に、実行時に行われたコマンドを PL*Sql 画面から隠すような設定をしておくこと

手順 2.

作成したスクリプト・ファイルを暗号化する
前ページを参照のこと

手順 3.

暗号化したスクリプト・ファイルを相手方に送り、実行してもらう

注 意)

暗号化出来るファイルは、プロシージャ、ファンクション、パッケージの Create 文
だけである

これ以外のファイル、単体 SQL 文、無名 PL/SQL ブロック文、DML 文 (テーブル Create 文) は暗号化出来ない

作成するスクリプト・ファイルのサンプル

```
D:\temp\test_script.sql
set pages 0          ← 1 ページの最大行数は、無限
set head off        ← 出力に対する列名は、表示させない
set newp none       ← 1 行目の改行削除
set feedback off    ← コマンドの確認メッセージ非表示
set trimspool on    ← 行末の不要空白の削除
set colsep ?        ← 列出力の区切り文字を『?』に変更

spool D:\temp\out_put.txt ← 実行結果が出力される先のファイル名
                               を指定

select '----- Step 01 -----' from DUAL;
select 'A      ? B          ? C          ? D          ? E          ?'
       from DUAL;

select * from emp ;

spool off           ← SPOOL を閉じる
```

暗号化ファイルの作成

```
wrap iname=D:\temp\test_script.sql oname=D:\temp\test_script.plb
```

暗号化ファイルの実行

```
sql> @D:\temp\test_script.plb
----- Step 01 -----
A      ? B          ? C          ? D          ? E
1?     愛川こずえ   ?             1?
2?     いとくとら   ?             1?
3?     ミンカ・リー ?             1?
```

出力されたスプール・ファイル

```
----- Step 01 -----
A      ? B          ? C          ? D          ? E
1?     愛川こずえ   ?             1?
2?     いとくとら   ?             1?
3?     ミンカ・リー ?             1?
```